

## 大会参加報告

## 第31回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 参加報告

「帯広での日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会に参加して」

----- サッカー2級審判員：堀 善仁 -----

【参加大会名】第31回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

【参加日程】8月14日(日)から8月17日(水)

【研修会のテーマ】動きとポジショニング / 集中力

## 1.はじめに

上記大会に参加させていただきました。

派遣を決めていただいた関西サッカー協会審判委員会ならびに兵庫県サッカー協会審判委員会、帯広での大会運営に尽力いただいた大会関係者の皆様に感謝致します。

本当にありがとうございました。



堀 審判員

## 2.研修内容

## ■ 1日目夕方からの講義

小川委員長からの挨拶

PR (プロフェッショナル  
フェリー) からの講義  
～名木審判員～

「今いる環境をポジティブに捉え、公共の場で

- ①共有すべき所
- ②配慮すべき所
- ③自分の考えを言う所

の3つを意識するように」とお話がありました。

国際審判員の名木氏、飯田氏から講義をいただきました。

名木氏の話は「良い準備」に対する話でした。全国大会に参加する審判員として、試合で100%の力を出すために、どのような準備をしたら良いか。例えば長い飛行機とバスでの移動の後、少しでも散歩する、走ることで足のコンディションを整えることも必要である。試合で使うフィールドを見に行く事や大会要項の確認、試合は何時キックオフなのか、大会全体を通した試合数はいくつなのかを把握することを当たり前に行うことを求められていると改めて感じました。「49番目(大会参加チームは48チーム)のチームとして、良い準備をして大会に臨む」事の大切さを学びました。

PR (プロフェッショナル  
フェリー) からの講義  
～飯田審判員～

飯田氏の話は「自分自身の振り返り」でした。実際に飯田氏が主審をしている試合を映像で見て、その時の飯田主審は何を考えていたのか、何が問題だったのか、どうしたらよかったのか、「ミスをした」だけではなく、具体的に何が問題だったか、どうしたらよかったかを自分で整理し、掘り下げていくことで上達につながることを学びました。

山口 ins (長崎県)  
の講義

この研修会で自動自治（自ら動いて学び、自らを上達させる）ことを教えていただきました。

## ■ 2日目夜の講義

浅井 ins (神奈川県)  
の講義

### <ビデオクリップディスカッション>

試合で実際に起きたシーンを振り返り、グループごとにディスカッションを行いました。ゴール前の争点を正しく見極めるためのポジションを取るために、ボールがゴール前に展開される前の主審の動きや動き出しのタイミングについて議論しました。

主審が先の展開を読むことができれば、より早く、より適切なポジションを取れることを感じました。

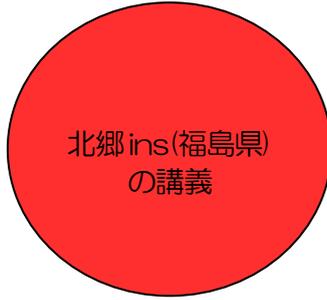
北郷 ins (福島県)  
の講義

「応用力・対応力」について話がありました。

日々、「なぜだろう」「どうしてだろう」と考えることで、気づきを持ち、応用力を上げることができるということでした。

また応用とは様々な基礎の知識を重ねて使うので、基礎の力を大切にすることを学びました。

## ■ 3日目夜の講義



## &lt;ビデオクリップディスカッション&gt;

2日目に起きた競技規則の適用ミスのシーンを全員で共有しました。その議論の中で、主審だけではなく、他の審判員はそのシーンの時に何をしていたのか、準備ができていたのか、チームとして助け合うことができていたのかを中心に様々な意見が出ました。



人間の「集中力」について教えていただきました。試合中に集中力を持続し続けることは難しく、集中する時としない時の切り替えをうまくできるかどうか重要ということでした。

## 3.試合を振り返って

2日目からは実際に試合を担当し、その中で自分の振り返りを重ね、会場が同じになった審判員の方々と様々なシーンについて議論していました。

## &gt;担当試合&lt;

8月15日(月) 担当 ins 北郷氏(福島県)

※枠内【数字】は大会試合番号

【3】 帯広市グリーンパーク A  
鹿島アントラーズつくば  
対 ツエーゲン金沢 (3:0) 副審1

【11】 帯広市グリーンパーク A  
清水エスパルス  
対 ソレッソ熊本 (4:1) 副審1

主審をサポートしようとする姿勢が見受けられたのは良かったとご指導いただきました。今後もこのような姿勢を大切に、主審が見えている映像と副審の見えている映像との違いを考え、サポートが必要な時にサポートしていきたいと考えました。

8月16日(火) 担当 ins 佐幸氏(富山県)

【25】 帯広市グリーンパーク A  
クマガヤFC 対  
北海道コンサドーレ旭川 (6:0) 主審

【29】 帯広市グリーンパーク A  
北海道コンサドーレ札幌 対  
前橋FC (3:2) 第4の審判員

中盤でのポジション取りでもっと幅をとるようご指導いただきました。中盤での動きが最後バイタルエリアでの主審のポジション取りに関わってくるので、動き出しを早くしてゴール前を良いポジションで見えるように意識しようと感じました。

## 8月17日(水) 担当 ins 小幡氏(東京都)

【61】 帯広市グリーンパーク A  
セレッソ大阪 対  
FC 東京深川 (1 : 0) 第4の審判員

【69】 帯広市グリーンパーク A  
横浜 F マリノス 対  
ベガルタ仙台 (5 : 1) 主審

第4の審判員として、主審からサポートを求められた時にどのようにサポートするかを常に考えるようにとご指導いただきました。また主審では、中盤で視野を確保し、先の展開を読むことによって、自分の近くをボールが通ることや、自分が後ろに下がってボールを通した結果、ゴール前にプレーが流れた時にプレーについていけないということがないようにとご指導いただきました。

## 4.試合を担当させていただいての課題

2試合主審を担当させていただき、中盤での動きを指導していただくことが多かったです。DF ラインでボールを回している時に立ち止まり、体の向きを変えることでプレーを見ていたのですが、その時に少しでも先の展開を読んで動きを修正する必要があると考えました。

私自身、競技者として全国大会に出場したこともなく、ゴール前へつながる攻撃の流れを感じるサッカー観のようなものが不足していると感じます。ゴール前にプレーが展開された時に、スピードを緩めて、広い視野を確保するためにも、先の展開を予測した中盤での幅を持った動き出しを意識していきたいです。そのために他の審判員のレフェリングや試合を多く見て、どのような場面で、どのような攻撃が展開されるのか勉強していきたいです。

3日目の横浜 F マリノス対ベガルタ仙台の試合では、後半25分頃、急激に天候が悪化し、暴風により得点板が倒れてしまうということもありました。後半28分に試合を一時中断し、様子を見て再開しましたが、後半31分に試合の中断が決まり、試合を終結させました。主審として、会場の責任者の方と中断するかどうかを話し、両チームの監督にこの試合を続けるかを話しました。初めての経験に驚きながら、選手の安全を考え、試合を途中で中断することができる主審の責任の大きさを改めて感じました。



## 5.最後に

今研修を通し、女子1級の方々は、自ら会場設営を手伝っていました。その姿を見習い、今後は自らできることを考え、行動していきたいと考えました。

インストラクターからは動きの面でもっと幅をつけて、中盤のボール回しの邪魔にならないように意識をすることを教えていただきました。目標である1級審判員になるために、いただいた指導をしっかりと整理し、今後の自分のレフェリングに生かしていきたいと考えます。

そして1級審判員になった時に、帯広の研修会に参加させていただいたことが自分にとって非常に良い経験になったと言いたいです。

このような素晴らしい研修会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。